

## 【緑区】令和5年 第3回 区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和5年9月5日 午後2時30分 ～ 午後4時05分
場 所	緑区役所4階 会議室4AB
出席者	<p>【座 長】越久田記子 議員</p> <p>【議員：3名】鴨志田啓介 議員、高橋正治 議員、斉藤達也 議員</p> <p>【緑区：22名】佐藤康博 区長、河村義秀 副区長</p> <p>宮嶋真理子 福祉保健センター長</p> <p>安達恒介 福祉保健センター担当部長</p> <p>得能千秋 緑土木事務所長</p> <p>齋藤優子 担当部長（緑図書館長） ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和4年度 個性ある区づくり推進費 決算</p> <p>2 令和5年度 個性ある区づくり推進費 執行状況</p> <p>3 令和6年度 緑区予算編成の考え方</p>
発 言 の 要 旨	<p><b>議題1 令和4年度 個性ある区づくり推進費 決算</b> (区長、副区長説明)</p> <p><b>【3 交通安全対策事業】</b></p> <p>斉藤議員：区民から、スピードを出した自転車が突っ込んできて危険な経験をした、という声を聴いている。自転車の運転マナーについて、警察とともに区として取組を行っているか。</p> <p>加納地域振興課長：警察や交通安全協会など、関係団体と連携しながら交通安全に関するキャンペーンなど定期的に行っています。自転車の利用に関して、スピードの出し過ぎだけでなく、ヘルメット着用の努力義務化もありますので、神奈川県警では、自転車の安全利用の5つのルールが掲載されたチラシなど配布しながら周知を図っています。</p> <p>斉藤議員：電動キックボード利用者は、区内にまだ多くないと思っているが、制度としてスタートしている。区役所からも、自転車の交通ルールについて、SNSなど活用しながら発信していただきたい。</p> <p>佐藤区長：これまでも交通安全協会と一緒に、駅ごとに交通安全のグッズ等を配布して啓発を行っています。さらに、自転車利用者に効果的に周知していけるよう、工夫しながら取組を進めます。</p> <p>斉藤議員：以前の市議員会議でも発言してきたが、区内の横断歩道が薄くなって見えないところが多数残っている。区役所だけでなく、市民局も含め市全体で県警や公安委員会に申入れを行う、または、</p>

市長名で県議会に対する要望を行っていくべき。

高橋議員：自転車のルールに関連して、歩行者の安全対策への工夫も必要。大人への啓発も大切だが、子どもへの啓発がより重要と考えるが、小学校での自転車の乗り方講習等を行っているか。

加納地域振興課長：小学校での交通安全の啓発は「はまっ子交通あんぜん教室」として年間で区内の4校から5校で実施しています。低学年のうちに自転車の安全な乗り方、ヘルメット着用等の基本的なルールを覚えてもらうことが非常に大事ですし、このような取組を今後も継続して実施していきたいと考えます。

高橋議員：自転車や電動キックボードが走るようになり、軽車両として車と共存して走る危険も出てくる。区として、緊張感、危機感を持って広報・周知を行っていただきたい。

佐藤区長：高橋議員、斉藤議員からいただいたご意見を踏まえ、「広報よこはま緑区版」での紙面の工夫や、SNS等を活用しながら周知を進めます。

#### 【6 あんしん子育てネットワーク事業】

越久田議員：令和4年度はコロナの影響で参加者が少なくなったことで、決算額も少なくなっていると推察する。今年度になって、この取組に参加されている方の声「コロナが明けたからいろいろ勉強ができる」「子育て支援に参加できる」というような感想があれば教えていただきたい。

竹内こども家庭支援課長：令和4年度はコロナの影響によって事業の回数が減ったということではなく、保育を希望する参加者の申込みが想定よりも少なかったため、保育協力者への謝金の執行が少なくなっています。現在も、各取組への参加者はコロナ前の状況に戻ってきている状態になっています。

#### 【19 みどり地域まちづくり推進事業】

斉藤議員：山下地区のささえあいバスについて、地域の方から話を聞くと、運転手の不足かつ高齢化ということで、運行の継続に苦慮していると聞いている。その状況を区役所は把握しているか。

尾立区政推進課長：ささえあいバスの委員会には区政推進課の担当職員が月ごとに出席しており、ボランティアの運転手確保が非常に課題となっていることを共有しています。10月の区民まつりでは、区

政推進課のブースの中で、山下地区ささえあいバスの PR と協力者を募る呼びかけを行う予定です。

齊藤議員：区全体への PR とともに、山下地区内での周知もお願いしたい。

### 【33 区民から親しまれる区役所づくり事業】

鴨志田議員：予算に比べ決算額が多くなっているが、執行内容について伺いたい。

齋藤総務課長：緊急的課題対応のための予算として、昨今では庁舎内の新型コロナウイルス感染症対策をこの事業の中で進めてきました。令和4年度は、脱炭素化に貢献するため、緑区役所4階の中庭に「ミドリン GARDEN」を整備したこと等により、決算額が増となっています。

## 議題2 令和5年度 個性ある区づくり推進費 執行状況

(副区長説明)

### 【5 暮らしの衛生推進事業】

齊藤議員：8月のペット同行避難に関する市民啓発講演会に参加させてもらったが、講師の経験が豊富で、ノウハウが詰まった内容だった。可能であれば、区の職員が受講してそれを通じて行うなどで、各防災拠点の運営委員会の皆様にも受講していただいた方が良く、と思っている。

田中生活衛生課長：講演会当日は、ペット同行避難の準備の重要性を座学で学んだ後、避難所でのペットに関する対応を飼い主が中心になって行うシミュレーションゲームを実施しました。緑区として初の取組でしたが、拠点は運営委員会の方だけではなく、ペットを連れて避難してきた避難者自身が運営主体であること、協力して避難所生活をつくっていくことなど、参加者の皆様が具体的に学べた大変貴重な場となったと感じています。今後も機を捉え、区民向けの講習会を継続的に行っていくとともに、区役所の職員研修での実施や各拠点への展開などについては、防災所管課の総務課とともに前向きに検討してまいります。

### 【19 ふるさとみどり魅力発信事業】

齊藤議員：自主企画事業費を見ると、緑区ならではの事業が多く掲載され

ている。青少年地域サポート事業の青少年向けの体験講座「緑区は昆虫すごいよ！」とか、とれたてみどり地産地消推進事業では、緑区庁舎で農の魅力の PR ということで野菜等の販売を行っている。大学との連携も積極的に行っていて、これも緑区ならではの取組だと思っている。ふるさとみどり魅力発信事業では、「緑区だから体験できる取組」を強調して伝えてもらうことで、転入者を呼び込めるような事業にしてもらいたい。

佐藤区長：区長就任後に参加した田植えなど、メディアに取り上げられないような貴重な体験等を支えている様々な人材が、緑区には多くいらっしゃいます。最近、玄海田公園にヤギを繋牧し、遊水地の周りの雑草を食べてもらったのですが、広報に載せたこともあって、近所の御家族に見学いただいたり、広聴にも「とてもよかった」と書いていただきました。ちょっとした何げないことが緑区の魅力アップにつながっているということを実感しましたので、今後も緑区らしさをしっかりと PR していきたいと思っています。

### 【23 3 R 推進事業】

斉藤議員：衣類のリユースを、区役所として実施していただきたい。また、廃食用油の回収についても、区役所として取り組んでいただきたい。区民まつりなどで啓発してはどうか。

加納地域振興課長：衣類のリユースにつきましては、主に消費生活推進員の方々の年間の取組として、コロナ禍の前まで、令和元年度までは年に2回ほど、区庁舎で実施していました。今の消費生活で問題になっているのは、いわゆる押し売等の悪徳商法への対応や、18歳で成人を迎える方に向けた契約トラブルへの啓発に力を入れていきたいという推進員さんが非常に多くいる中で、衣類のリユースについては、活動計画には入っていない状況です。本日いただいたご意見は、改めて推進員と共有していきます。また、衣類のリユースは民間事業者でも取扱いをしているところが増えており、SNS 上での個人間のやり取りも広がりを見せていますので、そういった事情も踏まえながら、今後の活動計画について考えていきたいと思っています。

柄澤資源化推進担当課長：食用油の回収について、過去に資源循環局においても、ごみ収集車両の燃料化モデル事業ということで、収集事務所の拠点回収等で廃食用油を集め、それを燃料にして収集車を稼働していましたが、モデル事業車両の老朽化や回収量の減少を

理由に平成 26 年度に回収を終了しています。この検討においては、様々な課題が見つかっており、当局での回収はしないと結論づけています。

一方で、燃料化技術の開発などで、脱炭素化社会の実現に向けた取組として再び廃食用油が注目をされておりますので、こうした取組の紹介や発信など後押ししつつ、本市での回収につきましては、引き続きリサイクル技術の動向などを注視しながら、検討を進めてまいります。

### 【31 区民から親しまれる区役所づくり事業】

鴨志田議員：緊急的課題への対応で、区庁舎の暑さ対策をどう考えているか。例えば、広場でのミストやパラソル、かき氷のキッチンカーを呼ぶなど、来年以降も暑くなることを想定して、区役所の配慮が必要かと思っている。

佐藤区長：4月の区長就任後、庁舎内の執務環境の整理を進めようと職員に呼びかけています。一方で、区民の方への暑さ対策につきましては、予算の制約はありますが少しずつでも対策を講じていきたいと考えています。

高橋議員：執務環境の暑さ対策について、職場内の温度の定点観測などを行い、サーキュレーター等を活用しながら、均一な涼しさを確保することによって、職員がより機能的に働くことができる。また、来庁者向けのウォーターサーバーを設置するなど、来年に向けた暑さ対策の準備を進めるべき。

佐藤区長：執務環境の確認を進めながら、改めてできるところから対策を講じます。

河村副区長：現在も、区役所受付時間が開始する8時45分には庁舎内が涼しい状態になるよう、冷房運転を行っています。一方で、職員の健康管理の面では、総務課が各課の状況を確認しながら、できる限り快適な執務環境になるよう配慮しております。

### 【バリアフリー基本構想】

斉藤議員：現在、長津田、中山、鴨居それぞれの地区で基本構想策定に向けた検討が進んでいるが、鴨居地区の方から話を伺うと、いわゆる健康者と視覚障害者とで、それぞれ危険と感ずる箇所は異なっているとのこと。両方の視点をうまく基本構想に盛り込んでいける

	<p>よう、より丁寧に、例えば別々にそれぞれの立場の方々に集まってもらって意見を聞く場面を設定した方が、想いが伝わる可能性もあると考える。</p> <p>尾立区政推進課長：構想の策定を進めている各地区でそれぞれまち歩きを実施してきましたが、鴨居地区は追加して、合計2回行って、「歩道が狭い」「視覚障害者のための点字のブロックがない場所が多い」などの御意見を多くいただいているところです。各事業者との調整の中で既に改善されている箇所もありますので、その点についてはバリアフリー基本構想の緑区部会にお諮りして、報告しているところです。まだ取り組めていない部分につきましては、引き続き課題として進めていく予定です。</p> <p>斉藤議員：議論の途中経過を我々議員にも共有しながら進めていただきたい。策定プロセスの中に位置づけられている委員会や部会の意見はもちろん尊重するが、各議員にも様々な要望の声が入っているため、そういった意見も含めて、基本構想にしっかりと盛り込んでいただきたい。</p> <p>また、鴨居のエリアでは、いわゆる民地を歩道として地権者の方に提供していただいている、使用を御了解いただいている場所が多くあると聞いている。地主さんに歩道の改善を実施していただくことはなかなか難しいため、例えば、狹隘道路の整備促進路線の場合、隅切りのところは横浜市が買いとるという制度があったかと思うので、バリアフリーでも同じように、民地の歩道を市が買い受けるための制度制定に向けた議論が必要と考える。</p> <p>佐藤区長：ご指摘の通り、場面ごとに丁寧に、それぞれの団体や関係者の方にお話を聞くことが大切と考えます。今後については、そういう視点をしっかりと持ちながら、組織として共有して丁寧に進めてまいります。</p> <p><b>議題3 令和6年度 緑区予算編成の考え方</b> (区長説明)</p> <p>議員からの発言なし</p>
備 考	